自主防災のすすめ―地域で災害に備える―

大規模な災害が発生したときに、地域を守るには、個人がばらばらで行動するよりも、組織的に防災活動を行える体制を備えて行動した方が効果的です。市では、ほとんどの町内会・自治会単位で、自主防災会が結成されています。自主防災会とは、地域住民が協力・連携して災害から「自分たちのまちは自分たちで守る」ために活動することを目的に結成する組織のことです。

自主防災会の役割（平常時）

○自分のまちの防災計画をつくる
○防災知識の普及・啓発（市の出前とーくの活用、講演会の開催など）
○まち歩きによる危険箇所や避難経路、倒れやすいブロック塀などの確認・周知と、これらを記したマップづくり
○災害時に必要な資機材（発電機など）の整備・点検
○家庭の安全点検の呼び掛け
○災害時要援護者（障がい者、高齢者、乳幼児、外国人）対策づくり
○防災訓練への参加の呼び掛けとその実施　など

自主防災会の役割（災害時）

○初期消火
○救出・救護
○情報の収集・伝達
○避難誘導・安否確認
○避難所の運営
○給食給水・生活維持
○安全点検・巡回
○地域の復旧・復興に向けた取り組みなど

まずは簡単な「地域づくり」から始めましょう

地域の防災力向上のためには、地域づくりの視点が重要です。日ごろから地域のつながりがあれば、災害時に連携しやすくなるでしょう。

①地域の誇りを大事にする…住民が共通に大事なものを作り、守る。例えば、石碑、祭、さまざまな文化など
②日常からの近所付き合い…子どもや高齢者に優しいまち。近所で声を掛け合う
③地域を支えるしくみづくり…地域が自律できるしくみ、住民と自治体の協働のしくみ

一人一人が備えてこ！防災力UP！鳥羽 vol.12

総務課防災危機管理室 ☎㉕1118

Vol.30

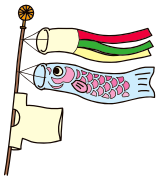
スマホ依存になっていませんか？

みんなで子育て だっこでほっと

子育て支援センター ☎㉕7225

「スマートフォンで子育て」こんな言葉を聞いたことはないでしょうか。最近行った講演会の中で、5人に1人がスマホを使って子守をしているというデータを見てびっくりしました。知育用であったり、赤ちゃんをあやしてくれるなどさまざまなアプリがあるようです。

これほどに、情報技術が進化している時代ですから、もちろん便利な物を使うのはごく普通のことです。しかし、「しつけ」つまり、子どもに善悪を教えるのが人ではなく機械に頼りきってしまってもよいのでしょうか。

脳の発達は相互作用から育つと言われています。大人の「あやす」という行動で赤ちゃんの「笑う」を引き出すのです。子どもの成長・発達を考えると、あやす時の優しい声や、手の温もりはとても大切だと思います。それが、スマホに依存した子育てになってしまったらと思うと怖い気がします。

さて、5月5日は「こどもの日」子どもの人格を重んじ、その幸福を図るとともに、母に感謝する日として祝日に定められたそうです。激流の滝を登りきる鯉のように元気に健やかに育って欲しいという願いを込めて「鯉のぼり」を揚げるようになったといわれています。何でも便利になった今の時代でも、そんな子どもを思う親の心には変わりはないはずです。こどもの日を機会に、どんな子育てをしたいか、どんな親でありたいか家族で考えてみるのもよいのではないでしょうか。